

京都大学アカデミックデイ2018



Dialog with the Public

『研究者の本棚』 ブックリスト



項目説明

ブックリストとは・・・京都大学研究者のオススメの本を紹介します。

※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

ブース番号 出展者のブース番号

出展者等 ・出展区分
「研究者と立ち話(ポスター／展示)」
「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」
「お茶を片手に座談会」
・出展代表者の所属・職名・氏名

出展タイトル 出展研究者の出展タイトル

ジャンル ※今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本
※今ハマっている本(誰かはこの本について話したい)
※若者にお勧めしたい本
※自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。

書名／著者名／出版社名 オススメする本の書名／著者名／出版社名

推薦理由、コメント、エピソード等 オススメする理由、コメントなど

『書名』の横の★★ 『研究者の本棚』コーナーに展示あり



ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
2	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院農学研究科・教授 入江 一浩 「アミロイドβの凝集を抑制する天然物」	自分の研究に関連して紹介したい本	『認知症 - 発症前治療のために解明すべき分子動態は何か?』★★ 森 啓 編集 羊土社	オールジャパンの底力を認知症研究で示すことを目的として編集された。
5	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院地球環境学堂・教授 高野 裕久 「なぜ、アレルギーは増えているの?」	自分の研究に関連して紹介したい本	『複合汚染』★★ 有吉佐和子 新潮社	1979年に出版された本ですが、現代の環境問題の考え方にも繋がります。複合汚染について知るための読みやすい冊です。
		若者にお勧めしたい本	『沈黙の春』★★ レイチェルカーソン 新潮社	化学物質の環境問題について考えさせられる世界的な名著です。
6	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院文学研究科・研究員 大庭 弘継 「世界にあふれる『究極の選択』」	自分の研究に関連して紹介したい本	『国際政治のモラル・アポリア — 戦争/平和と揺らぐ倫理』★★ 高橋良輔・大庭弘継 編 ナカニシヤ出版	「地獄への道は善意で敷き詰められている」という格言があります。国際政治においても、望んだものは真逆の結果になる難問が生じています。これら解決できない難問(アポリア)を、人道的介入、対テロ戦争、核廃絶、防衛戦争、平和構築、民主化、国家主権、人権などのトピックごとに取り上げて、本書は考察しています。みなさんも、本書を通じて国際政治学者の苦悩を共有してください。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人道的介入: 秩序と正義、武力と外交』★★ 小松志朗 早稲田大学出版部	ある国の内戦で一般市民が大量虐殺や人権侵害の犠牲になっているときに、その人々を救うために他の国が軍事力を使って介入することを人道的介入といいます。本書はそれが実際に成果をあげられるものなのか、あるいはどうすれば成果をあげられるのかということについて、4つの事例(ソマリア、ボスニア、コンゴ、リビア)を手がかりに考えています。現在進行中のシリアの内戦・介入を理解するのに役立つ本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『戦後思想の再審判—丸山眞男から柄谷行人まで』★★ 大井赤彦・大園誠・神子島健・和田悠 編 法律文化社	戦後日本を代表する12名の思想家たちは、それぞれが生きた時代の「日本の課題」をどのように考え、それを解決するためにいかに格闘したのか。彼ら/彼女らが取り組んだ課題にはまだ未解決のまま残されている「未完の課題」も多い。与えられた条件(その時々政治的、経済的、社会的、文化的な条件など)のなかで、いかに問題解決に取り組みばよいか。歴史的なケーススタディとして、彼ら/彼女らの思想的営為に注目せよ。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『赤いオーロラの街で』★★ 伊藤瑞彦 早川書房	まだ見ぬ全世界宇宙天気災害をシミュレーションした日本語の小説。どのようなことが起こりうるかを小説の形であらわしている。これを防ぐための「決断」がいかに重いかかわる一冊。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『資料で読み解く「保護する責任」—関連文書の抄訳と解説』 中内政貴・高澤洋志・中村長史・大庭弘継 編 大阪大学出版会	紛争等で苦しむ遠い国の人々を助けるべきか。ときに武力で。このような「究極の選択」に関わる概念に、「保護する責任」というものがあります。2001年の提唱以来、論争が繰り返されてきた概念ですが、それが誕生した背景や近年の新たな展開を踏まえていなかったり、類似概念と混同していたりするなどの誤解がみられることも事実です。本書が紹介する120の資料を踏まえ、正確な理解に基づいて「究極の選択」を議論してみませんか。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『地球環境時代の水と森』 太田猛彦・服部重昭 日本林業調査会	水と森に関する新たな科学的知見を取り入れて、水循環と森林との相互関係を正しく理解し、また、実際に水と森をまもり、はぐくんできていくにはどのような取り組みをすればよいか、という問いにわかりやすく応えようとした本。
7	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院農学研究科・特定准教授 勝山 正則 「水はどこから来てどこへ行くのか?」	若者にお勧めしたい本	『森林飽和—国土の変貌を考える』★★ 太田猛彦 NHK出版	山に森があり木々がたくさんあることは、当たり前でしょうか? 森林の状態変化によって受けるメリット・デメリットは変化しています。この歴史を本書によって学んだうえで、森林や林業の今後を考えるきっかけに欲しい。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『激甚化する水害 地球温暖化の脅威に挑む』★★ 気候変動による水害研究会 日経BP社	近年繰り返される豪雨による災害。最近の事例を豊富な写真で紹介するとともに、そのメカニズム社会や経済に与える影響を解説している。
		今ハマっている本(誰かとの本について話したい)	『カリフォルニア 水銀行の挑戦』★★ 遠藤崇浩 昭和堂	渇水対策として水を増やすことが出来ない状況では、効率的な水の配分が求められる。ダムや貯水池建設のハード対策でカバーしきれないところを、法整備、制度作りなど、市場メカニズムを取り入れたソフトの対策で対応している先進的な事例を紹介。
		自分の研究に関連して紹介したい本		

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
11	研究者と立ち話(ポスター/展示) 京都府立海洋高等学校・教諭 長岡 智子 「現実から目を逸らすな～海洋ごみ問題～」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『プラスチックスープの海 北太平洋巨大 ごみベルトは警告する』★★ チャールズ・モア、カッサンドラ・フィリップ ス NHK出版	普段、陸域で生活する私たちに、想像できるでしょうか。河川か ら海へ流れ出た「プラスチックごみ」がどのような一生をたどるの か。海岸には漂着ごみが溢れています。海の真ん中にはごみ は無いのでしょうか。この本は、海洋ごみ問題について述べられて います。写真も多く掲載されていますので、ぜひ、御一読いた だき、「プラスチック製品との付き合い方」について、一緒に考 え、行動しましょう。
14	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・助教 松田 直樹 「音で見る 一超音波による非破壊検査～」	今ハマって いる本(誰かと この本について 話したい)	『寿司 虚空編』★★ 小林銅蟲 三オブックス	意味もなくたたくて有限な数にロマンを感じる本。学術的な 価値は不明ですが、頭の奥がしびれるような魅力があります。
		今ハマって いる本(誰かと この本について 話したい)	『暗号解読 上』★★ サイモン・シン 新潮社	暗号を解くことあるいは作ることに不思議な魅力があります。 古代の暗号から現代の暗号まで時系列で紹介されており、非常 に読み物として楽しいです。読み終わる頃には単一換字式暗号 が暗号に見えなくなるはずです。
		今ハマって いる本(誰かと この本について 話したい)	『暗号解読 下』★★ サイモン・シン 新潮社	第5章の線文字Bの解読は、研究者どうしのドラマもありイチャオン です。
15	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 高橋 良輔 「どうぶつにヒトの病気になるてらう」	今ハマって いる本(誰かと この本について 話したい)	『新・生産性立国論』★★ デービッド・アキンソン 東洋経済新報社	元ゴールドマンサックスの共同出資者でありながら、茶道など日 本文化に精通し、現在は小西美術工芸社社長という異色の経 歴。既刊「新・観光立国論」では日本の伝統文化における様々な 問題を分析し、その成果は現在の日本の訪日観光戦略にも大き く反映されている。今回は観光戦略だけでなく、さらに日 本の経済構造の問題点に独自の視点から切り込んでいる。独特 のアキンソン節に目からウロコが落ちること間違いなしである。
		若者にお勧め したい本	『史上最強の人生戦略マニュアル』★★ フィリップ・マグロー きこ書房	自己啓発本なんて読むのは時間の無駄…、と思っていた私も思 わずページをめくってしまう。「人生の責任は自分にある」、「問題 はあなたが認めるまで悪化していく」など厳しい言葉が並ぶが問 題を解決するという点に焦点を絞っており非常に説得力がある。 「自分のしていることは正しいのに認められない」と感じている人 は、ぜひ一度はこの人生というゲームの攻略ガイドブックを読ん でほしい。
		今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『稀で特異な精神症候群ない状態像』 中安 信夫 星和書店	研修医の時に会った、不思議な症状を訴える患者さん。総合 診療科のベテラン医師に相談しようやく候補に挙がった「不思議 の国のアリス症候群」を調べるうちに出会った本でした。人間 の精神や脳というのはこれほど多彩な病状を示しうるのだとい うことに衝撃を受けた覚えがあります。私は脳という物理的な側 面からアプローチしていくことを選び脳神経内科医となりました が、精神科を志す医師にとっても重要な一冊と思われれます。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『脳のなかの幽霊』★★ V・S・ラマチャンドラン 角川書店	中枢神経の障害によって生じる奇妙で興味深い症状の実例を挙 げつつ、脳の不思議について紹介・解説されている一冊です。著 者自身が神経科学者でもあります。どちらかと言えば心理学 的な切り口かつ平易な表現で書かれており、医学的な専門知識 が無くとも楽しく読むことができると思います。
16	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・教授/教授 田中 庸裕/田中 功 「元素戦略プロジェクト」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	元素戦略プロジェクトのプログラムオフィサーが著した本で、「元 素戦略」のねらいがよくわかる。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『「未来を拓く元素戦略」持続可能な社会を 実現する化学』★★ 「日本化学会編」化学同人 化学同人	元素戦略という概念が形成された当時の本です。
17	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・特定助教 井出 和希 「学校健診データから将来の健康を考える」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『世界一シンプルで科学的に証明された究 極の食事』★★ 津川 友介 東洋経済新報社	テレビや雑誌で日々見聞きする健康情報、特に「〇〇が健康に 良い」という謎い文句について再考できる一冊であるため、推薦 します(本書の内容も批判的に吟味(Critical appraisal)してみ てください)。
		若者にお勧め したい本	『リサーチの技法』★★ ウェイン・C・ブース ソシム	レポートを書く時や研究を進める時に独りよがりになってしま わないように押さえておきたい基本がまとめられているため、推薦 します。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『医学のあゆみ Real World Data(実臨床 データ)を用いた臨床疫学研究 2018年 265巻11号』★★ 川上浩司ら 医歯薬出版	学校健診をはじめとした健康に関連した情報の活用について、 今の動きを俯瞰できる一冊であるため、推薦します。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
19	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院薬学研究所・教授 掛谷 秀昭 「天然物創薬ケミカルバイオロジー」	自分の研究に関連して紹介したい本	『くすりをつくる研究者の仕事』★★ 京都大学大学院薬学研究所 化学同人	薬づくりに関して、化学系、生物学系、物理系、医療系など、多角的視野からわかりやすく解説している入門書。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『入門ケミカルバイオロジー』 入門ケミカルバイオロジー編集委員会 オーム社	ケミカルバイオロジーに関する中高生以上を対象にして入門書
		若者にお勧めしたい本	『栄光なき天才たち、続栄光なき天才たち、その後のシリーズ』★★ 集英社、ホーム社、講談社	歴史の偉人に関する知られざるエピソードが記載され興味深い。漫画形式なので、小学校高学年から興味をもてるのでは。
20	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究所・准教授 横川 隆司 「微細加工で創る新たなナノバイオの世界」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	修士課程の時に留学したUCLAで教科書として使われていました。この本から、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえるようになりました。京大の大学院でも、このような英語の教科書でワールドクラスの講義ができるようになることを期待しています。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『小説東京帝国大学』 松本清張 筑摩書房	移動中など時間を見つけて清張作品を読むのが趣味です。単なる推理小説ばかりでなく、フィクションからノンフィクションまで昭和の間の部分や人間性についての描写が、日常の喧噪を忘れさせてくれます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『生体分子モーターの仕組み』 石渡信一 共立出版	異分野の研究者がモータタンパク質(生体分子モーター)について学ぶのに最適です。日本の研究者が主導してきた、一分子生物物理学の分野からとらえたモータタンパク質についてわかりやすく書かれています。
21	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究所・教授 佐藤 俊哉 「医療を創る統計学—臨床統計学」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『銀河帝国興亡史1』 アイザック・アシモフ 東京創元社	アシモフの「ファウンデーションシリーズ」の1冊です。個人の反応は予測できないが、集団としての反応は一定の確率で予測できるとする「心理歴史学(Psychohistory)」—銀河大百科事典には「難解な統計科学」と記載されています—が物語の中心となっています。中学1年のときにこのシリーズを読み、統計学にあこがれてとうとう「宇宙怪人しまりず 医療統計を学ぶ(若波科学ライブラリー)」というシリーズを書くまでになってしまいました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『代替医療解剖』★★ サイモン・シン(青木薫 訳) 新潮社	サブタイトルに「Trick or Treatment?」とあるように、「根拠のない医療」について科学的アプローチに基づく考察や容赦のない批判をまともめあげた名著です。ホメオパシー、カイロプラティック、ハーブ療法などの世界各地で取り上げられる代替医療について徹底的な議論を与えています。歪んだ情報化社会の中での医療選択について再考させられ、「根拠に基づいた医療」がいかに大切を考えさせてくれる本です。
22	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究所・教授 杉山 弘 「人工遺伝子スイッチライブラリー」	自分の研究に関連して紹介したい本	『基礎ケミカルバイオロジー』★★ 杉山 弘、板東俊和 化学同人	「化学を基盤とした生物学」をコンセプトに、ケミカルバイオロジーの基礎をまとめた入門書である。有機化学と細胞生物学をつなぐための化学的知識を解説している。
		若者にお勧めしたい本	『有機化学要論 生命科学を理解するための基礎概念』★★ 入江一浩、津江広人 編著 学術図書出版社	高校生から大学生向けの本である。有機化学に馴染みのない学生に対して、有機化学を初心者向けに幅広く書かれた教科書的な入門書として推薦したい。
		若者にお勧めしたい本/自分の研究に関連して紹介したい本	『エピゲノムと生命』ブルーバックス』★★ 太田邦史	新しく発展しているエピジェネティクスとゲノムについてわかりやすく書かれた入門書で、複数回読む価値がある本です。ノートを作り今でもよく読み直しています
23	研究者と立ち話(ポスター/展示) 東南アジア地域研究所・教授 河野 泰之 「東南アジアと考える持続可能な社会」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『文明の生態史観』★★ 梅棹忠夫 中央公論新社	学生の頃、読みました。当時はまだ学生が気軽に海外旅行できる時代ではありませんでした。海外に行きたいという気持ちを、海外を舞台にした小説を読んで紛らわせていました。そんなとき出会ったのがこの本。洞察力を身に着ければ海外を旅行することが職になるのだ、と気づかせてくれました。おかげで、東南アジアを中心に世界各地に行かせていただくことができました。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』★★ ケネス・ボメランツ 名古屋大学出版会	産業革命以降の近代経済の発展は西洋社会の持つ優位性によるものが支配的だった経済史の分野で、産業革命以前のヨーロッパと中国の経済レベルには差がなかったという主張で、いわゆる「大分岐論争」を巻き起こしている。今の私たちの社会が持続的ではない方向に向かっていっているなら、その歴史的起源はどこにあるのか? 著者には「グローバル経済の誕生」という共著でも、自由貿易は正しいという常識に疑問を投げかけている。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		若者にお勧めしたい本	『銃・病原菌・鉄』★★ ジャレド・ダイヤモンド 草思社	私たちが常識と思っていることは決して常識ではない。それは、日本社会の、あるいはもっとローカルなコミュニティの、現代という瞬間に共有されている考え方でしかない。場所が変われば、また時代が変われば、常識は変わる。常識と考えていることをどこまで突き詰めて問い直すことができるかこそ、研究の深さとそのインパクトの広がり規定する。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『講座 生存基盤論(全6巻)』★★ 杉原薫他編 京都大学学術出版会	20世紀後半の人類社会の動態は人類の長い歴史において特異なものだった。21世紀、あるいはその先へと続く人類社会の持続的な発展を構想するためには、20世紀後半の人類社会が成し遂げたものすべてを出発点とするのではなく、それらを選択的に継承しようとする視座に立つべきである。人間社会と自然の関係や公共圏と親密圏の関係を再構築することこそ、人類社会のより長期的持続的な発展の基盤となるだろう。
24	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院人間・環境学研究所/東南アジア地域研究研究所・特定研究員/連携講師 西本 希呼 「心のものさしー世界の言語の車窓から」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『「理科」で歴史を読みなおす』 伊達宗行 筑摩書房	日本史・世界史は私にとって苦手で馴染みにくい分野でした。理科や科学、数え方に焦点をあてて書かれたこの書籍は、現代にも通ずる人々の数の認識や計測の仕方を考察することができ、今の学術調査研究に応用しています。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『桜がなくなる日』★★ 岩槻邦男 平凡社	桜は人生の節目のシンボルのようなものであり、誰も満開の桜、散りゆく桜を見て心を揺さぶっているかと思っています。そんな桜がなくなる日が来るかもしれない。生物の絶滅と多様性、生物の多様性が私たちの文化・芸術・感受性にどう関係しているか考えさせられる本です。
		若者にお勧めしたい本	『ネイチャー・カレンダー 動植物で知る12か月』 平凡社新書編集部 平凡社	情報へのアクセスが容易くなり、テレビや新聞よりスマホやタブレットについて目をやってしまう時代。とはいえ、四季の折々を外へでて感じていると思います。この本は、日本の歳時記や、日々目にする生物や自然を改めて親しみきっかけを与えてくれます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『<茨>の国の言語』★★ 西本希呼 慶応義塾大学出版会	誠に僥倖ながら、「研究に関連した本」として私の著書を紹介致します。<茨>の国とは、私が研究対象としている言語を話す人々の地域名です。10年余りマダガスカルで研究してきた著者によるマダガスカル語に関して書いた日本で初めての出版物です。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『大人の時間はなぜ短いのか』★★ 一川誠 集英社	とても身近な課題ですが、最近授業で取り上げ議論しました。皆さんは、年を重ねるにつれて、どうして時間が短く感じるようになりますか？最近「時間」に関する本を気分転換に読んでいます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『円環大全: 知の輪郭を体系化するインフォグラフィックス』★★ 三中信宏 監訳 マニユエル・リマ著 ビー・エヌ・エヌ新社	科学、芸術、思想、解剖学、哲学、ありとあらゆる円環が描かれており、人間の考え方や時代背景、解釈を詳述しています。どの頁をあけて見ても楽しくて、知の世界への誘いです。
25	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・日本学術振興会特別研究員PD 小原 脩平 「素粒子を見よう！」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『燃えつきた反宇宙(図解雑学)』 広瀬 立成 ナツメ社	高校生の時に人生で初めて出会った素粒子の本。素粒子の不思議な世界に引き込まれ、より深く素粒子のことを知りたいとおもうようになった。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『古寺巡礼』★★ 和辻 哲郎 筑摩書房	大正時代に書かれた京都・奈良の古寺に関する印象記。和辻氏の知識量にはただただ圧倒される。昨年は週末を使ってこの本に登場するお寺にいくつか訪れた。平日は実験で人工的に作られた数ナノ秒という時間の信号を扱っているのに対して、週末訪れたお寺には同じく人間によって作られた千年以上前の人工物が鎮座しているということがとても印象的だった。
		若者にお勧めしたい本	『どくとるマンボウ青春記』★★ 北 社夫 新潮社	北社夫氏の旧制高校時代から大学にかけてを綴ったエッセイ。大学2年の春休みに読んで、この本からは人生観にかなり強く影響を受けた。この本は、青年期の悩みに対する一つの答えを与えてくれたように思う。悩み多きうら若き皆さまにはぜひ。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『解析力学・量子論』★★ 須藤靖 東京大学出版会	物理学の基礎である解析力学と量子力学の参考書。参考書という形を成しているが、著者の科学に対する思いや姿勢などが随所に記されており面白い。物理学を学んだことのない人でも、前書きと後書きは為になることが書かれていると思う。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
27	研究者と立ち話(ポスター/展示) こころの未来研究センター・准教授 内田 由紀子 「生理センシングでリアルなこころに迫る」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『文化心理学』 増田貴彦・山岸俊男 培風館	文化と心の関係を理解できる教科書的な読み物です
		今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『昔話と日本人の心』★★ 河合隼雄 岩波書店	こころの深淵を古い物語から探り出す記述に引き込まれます
		若者にお勧め したい本	『走ることに ついて語るときに僕の語るこ と』★★ 村上 春樹 文藝春秋	走ることに ついて、いわゆる村上春樹調のシニカルな文体で書 かれたエッセイです。何も走ることに限らないが、運動することで 得られる主観が適切に説明されているように感じます。運動しない 人にとって、運動の良さはわかりにくいですが、これを読むとなんと なくわかったような気にさせてくれます。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『つながり』の進化生物学』★★ 岡ノ谷 一夫 朝日出版社	生物学とタイトルに入っていますが、他者とのつながりを求める ところについて書かれた本です。こころという概念が、人間だけ でない他の生物への広がりを持った問題であることをわからせて くれます。実際の対話をもとにした章構成も、読み手を引き込ま せるため、主体的に内容を理解できます。
28	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大阪府立長野北高等学校 清水 大河 「温泉で魚と緑を増やす研究」	今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『鉄は魔法つかい』★★ 畠山重馬 小学館	元々こちらの本を偶然図書館で見つけたのが今の研究のきっか けです。この本を見つけていなかったら今の研究もありませんで した。内容は牡蠣養殖家である畠山氏の半生と共に、あまり知ら れていない海における「鉄」の重要性と、その「鉄」で魚や緑を 増やし、海を豊かにしようとしてきた人達のエピソードが語られま す。字も大きく挿し絵もありとてもわかりやすく纏められてある本 です。きっと山や川、そして海への視点が180度変わる本だと思 います。
29	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院情報学研究所・助教 大本 義正 「鏡としてのエージェント」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『正直シグナル』★★ アレックス(サンディ)・ペントランド(著)、安 西 祐一郎(監修、翻訳)、柴田 裕之(翻訳) みすず書房	非言語コミュニケーションを様々なデータに基づいて、わかりや すく分析している。
30	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院文学研究科・講師 Björn-Ole KAMM 「ロールプレイングによる支援と理解啓発」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『自閉スペクトラムの発達科学(発達科学 ハンドブック10)』★★ 日本発達心理学会 編 / 藤野 博・東條 吉邦 責任編集 新曜社	これまで治療や行動修正の対象になる病理現象として捉えられ てきた自閉スペクトラム症(ASD)を、発達の多様性の具体的な 現れという視点で捉え直し、心理学、医学、支援者、当事者など 多様な立場から、基礎研究と臨床研究、また萌芽的な研究や試 みも含め最先端の知見を展望し、新たな方向性を探求した書 籍。発表者の一人(加藤)が、「余暇活動支援」の章で、TRPGの 研究と実践について執筆しています。【加藤】
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『自己と他者の統治 コレージュ・ド・フラン ス講義1982-1983』★★ ミシェル・フーコー(著)・阿部 崇(翻訳) 筑摩書房	本書(日本語訳)だけでなく、本書の英語訳そしてフーコーの他 の講義記録や論文は、自分の研究方向に強い影響を与えまし た。「常識・当たり前に疑問を持つ」というスタンスを大切にしたい と思うようになった1冊です。 フーコーは哲学者・歴史学者ですが、「パワー(権力)は人が持 つものではなく、人々の間の関係性だ」という彼の考え方は社会 科学においても非常に重要な洞察だと思います。【KAMM】
		若者にお勧め したい本	『絵でわかる なぜなぜ会話ルールブック: これでわかるコミュニケーションのなぜ』★ 藤野 博・綿貫愛子 著 合同出版	「話すときに目を見るのはなぜ?」「なぜ遠回しな言い方をする の?」といった、会話やコミュニケーションについての素朴な疑問 を心理学・言語学を基に解説した本。想定されている読者対象 は小学生ですが、高校生や大学生、大人でも十分面白く読め る、人間のコミュニケーションのユニークさに気づけます。ASD (自閉スペクトラム症)の当事者の視点を取り入れている点も本 書の大きな特徴です。【加藤】
		若者にお勧め したい本	『ストーリーメーカー 創作のための物語 論』★★ 大塚 英志 星海社	若者が受動的なオーディエンス(読者)にとどまらず、自己表現 や自分の物語を作成できるようになるための非常に優れた物語 制作マニュアルです。なお、大塚英志はTRPGについても研究し ており、物語論、キャラクター小説論等の本の筆者でもありま す。【KAMM】
32	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・大学院生命科学研究所・教授 松田 道行 「光を使ってトコトン探ろう、細胞のコト」	今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『影との戦い—ゲド戦記(1)』★★ アーシュラ・K. ル=グウィン 岩波書店	映画化もされた有名な本です。特に、「魔法使いが一生を賭けて 物の真の名前を探すことの重要性」を賢人が語る件が好きで す。研究者が真実を探る姿勢と重なり合うものがあるからで す。河合隼雄先生が推薦しているということを知りながら高校生のと きに読み、卒業してから原著を読んで二度感動しました。(松田)
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『江戸の好奇心—美術と科学の出会い』 内山淳一 講談社	私たちが日常的に使う「光学顕微鏡」が、いかに江戸の人々の 好奇心を刺激したかを知ることができます。微小な世界を覗くこ とができるようになり、江戸の細密な美術表現に磨きがかかった とか。平賀源内も顕微鏡観察にトリコになったようです。(平島)

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		若者にお勧めしたい本	『生命のなぞをたずねて—小さな道化師の役割』 寺本 英 筑摩書房	京大に畳の研究室をつつた名物教授がおくる生物物理の一般書。生き物の中の分子がどうやって「きちんと」振舞っているのかを知りたい人におすすめです。(平島)
33	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 乾 晴行 「炎を制する—超耐熱構造材料」	自分の研究に関連して紹介したい本	『金属間化合物入門』★★ 山口正治, 乾 晴行, 伊藤和博 内田老鶴園	耐熱材料の中のエース, 金属間化合物について平易に述べられている。
		今の仕事(研究, 進路)を選ぶきっかけになった本	『耐熱合金のおはなし』★★ 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減, 省エネルギーに寄与しているか, どのようにして材料設計が行われているのかなどについて初心者にもわかりやすく書かれた本で, 非常に感銘を受けた。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『元素戦略』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	「材料を制する者が世界を制する。」元素を原子スケールでマニピュレートすることで, これまでにない素晴らしい材料をいかに作り上げるかを考えさせられる。
34	研究者と立ち話(ポスター/展示) 環境安全保健機構・助教 岡林 里枝 「健康情報なつくん:学習効果検証中!」	自分の研究に関連して紹介したい本	『過剰診断:健康診断があなたを病気にする』★★ H・ギルバート・ウェルチ他著, 北澤京子訳 筑摩書房	健康な人を対象に行われる各種のスクリーニング検査(拾い上げ検査)は, 病気の早期発見につながるというメリットがある半面, 過剰診断というデメリットもある。過剰診断に陥りやすい背景とそのからくりを追った, 米国で大きな話題を呼んだ書籍の翻訳です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『病気の「数字」のウソを見抜く:医者に聞くべき10の質問』 スティーブン・ウォロシン他著, 北澤京子訳 日経BP社	患者が医師に対して治療法の効果について確認する際, 重要なポイントについてわかりやすく解説。EBM(Evidence-based Medicine)の基本的な考え方がわかりやすく解説されていることに感動し, ぜひ日本の読者に紹介したいと考え, 翻訳しました。
35	研究者と立ち話(ポスター/展示) 産官学連携本部・特定准教授 湊 丈俊 「表面や界面の不思議な世界」	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『Camille』 Michael A. Henderson Killer Bs	表面界面科学の分野で著名な業績を残した研究者が, 表面界面科学とはかけ離れた内容で執筆した小説である。小説の内容には抽象的に表面界面科学の考え方が含まれている。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『「いき」の構造』★★ 九鬼 周造 岩波書店	日本特有の思想である「いき(粋)」について記述された名著である。日本のデザインのコンセプトがこの本の中に表現されている。美術家である父の勧めで読み始めたが, 大変興味深い本である。
		今の仕事(研究, 進路)を選ぶきっかけになった本	『COSMOS』★★ Carl Edward Sagan 朝日新聞出版	小学生の頃, 太陽系の惑星に興味を持ちきっかけとなった書籍である。作者は宇宙生物学の大家で, 専門書からSF作品まで幅広い著作がある。本書は1980年の古い書籍であるが, 地球外生命体に関する古代からのイメージの変遷や, 当時知り得る太陽系の惑星の環境が細かに描写されており, 読み物としても現在でも十分楽しめる名著である。
		今の仕事(研究, 進路)を選ぶきっかけになった本	『表面物理学』★★ 村田 好正 朝倉書店	表面界面科学の基礎がまとめられた本であり, 学生の時, この分野の面白さを教えてもらった本である。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『岩波講座 現代化学への入門(14)表面科学・触媒科学への展開』 川合 真紀, 堂免 一成 岩波書店	専門家として表面界面科学を学ぶにあたり, 基礎として知っておきたい事項を易しく説明した良本である。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『面・表面・界面—一般表層論』★★ François Dagognet 法政大学出版局	概念としての表面や界面に関する興味深い本である。
36	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 高岡 昌輝 「水銀の行方」	今の仕事(研究, 進路)を選ぶきっかけになった本	『死の川とたたかう』★★ 八田清信 借成社	小学校の時に, イタイタイ病の話を読んで, 環境問題や人に関係する職業に就きたいと感じました。ちょうど, 新版がでているようですので, 改めて読んでみたいと思います。
		若者にお勧めしたい本	『環境マインドで未来を拓け』★★ 環境工学への誘い刊行委員会 京都大学学術出版会	日本の環境工学が創設されたのが, 約60年前です。多くの先駆者が日本の環境を良くしようとがんばってきました。未来に向けて挑戦していく時に, 今まではどうだったのかを理解する上で良い本ではないかと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『地球温暖化と廃棄物』 武田信生, 福永勲, 高岡昌輝 中央法規出版	地球温暖化は紛れもなく, 今後の環境問題の主流と言えるでしょう。廃棄物・循環資源の分野とも密接に関係しています。約10年ほど前に出版された本ですが, 基本的な考え方は変わっていません。どこが対策強化されたかを感じることもできるでしょう。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
37	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院文学研究科・教授 松田 素二 「アフリカから学ぼう」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『紛争をおさめる文化』アフリカ潜在力1-5 巻★ 松田素二・平野(野元)美佐編ほか 京都大学学術出版会	誰もが不完全であることを認める。これこそが、アフリカ文化に内在した世界観である。自らの「完全」性を信じ、それ以外のものへの不寛容や攻撃を「運れたものを救済する」正義として正当化してきた西洋的近代の誤謬を糾す可能性がそこにはある。緻密な民族誌から、アフリカの日常実践の持つ、紛争を回避し和解を進める力を析出する。
		若者にお勧め したい本	『アフリカ社会を学ぶ人のために』★★ 松田素二編 世界思想社	多様な民族・言語・生態環境をもつアフリカが体系的にわかる入門書。アフリカの経験してきた過去・困難・絶望のなから、アフリカの潜在力を描きだし、人類社会の希望と可能性を展望する。21世紀のアフリカを理解するための必携書。
		若者にお勧め したい本	『新書アフリカ史』★★ 宮本正興・松田素二 講談社	人類誕生から混沌の現代へ、壮大なスケールで描く民族と文明の興亡。新たなアフリカ像を提示し、世界史の読み直しを迫る必読の歴史書!
39	研究者と立ち話(ポスター/展示) 人文科学研究所・日本学術振興会特別研究員PD 宇田川 彩 「エスノグラフィを知ろう、そして使おう」	今の仕事(研究、 進路)を選 ぶきっかけ になった本	『離散するユダヤ人—イスラエルへの旅から』★★ 小岸昭 岩波書店	学部生の時に、この本を持ってモロッコを訪れました。モロッコでのユダヤ人との出会いがきっかけとなり、卒論からユダヤ人×文化人類学研究を始めました。
		今ハマって いる本(誰か とこの本に ついて話 したい)	『デモクラシー・プロジェクト: オキュパイ運動・直接民主主義・集合的想像力』★★ デヴィッド・グレーバー 航思社	先日、アルゼンチンから帰国するロングフライトの機内で根を詰めて読みました。「われわれは99%だ!」に反省を込めて。
		若者にお勧め したい本	『魔の山』★★ トーマス・マン 新潮社	何でもよいのですが、分厚くて暗い本を一日中、何日もかけて読むということが「若者」ではないとあまり出来なくなるので。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『フィールドワークへの挑戦—“実践”人類学入門』★★ 菅原和孝 編 世界思想社	学部時代のフィールドワークについて一部執筆しており、自分の未熟さに恥ずかしくもなりますが、世界をわかろうとする姿勢や手法に向かう原点はここに記されていると思っています(比嘉)。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『アルゼンチンのユダヤ人—食から見た暮らしと文化』★★ 宇田川彩 風響社	「食」という誰しもにとって身近なテーマに焦点を当て、「アルゼンチンのユダヤ人」についての概説書の役割を兼ねた小さなエスノグラフィです。
40	研究者と立ち話(ポスター/展示) 医学部附属病院・特任病院准教授 佐藤 恵子 「『いのち、人体、細胞』をどうする?」	若者にお勧め したい本	『マンガで学ぶ生命倫理: わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』★★ 児玉聡 文、なつたか 漫画 化学同人	再生医療やら脳死臓器移植やら、「夢の医療」などと報道されるけど、そんなにバラ色なの? そもそも、脳死ってなんだっけ? 生き死にの問題は、身近なことであり自分で考えなくてはならないのですが、難しい辛気くさいし、ハードルが高いですね。この本は、女子高生の日常を軸にして、脳死や生殖医療、クローン技術など、生命倫理の問題を学びつつ、考えられるように工夫されています。是非手にとってみてください。
		今の仕事(研究、 進路)を選 ぶきっかけ になった本	『現代倫理学入門』★★ 加藤尚武 講談社	学部生のときに読んで倫理学を学ぶことになりました。現代の社会的問題を考える上で哲学が重要であることを教えてくれる本です。
		今ハマって いる本(誰か とこの本に ついて話 したい)	『137億年の物語: 宇宙が始まってから今日までの全歴史』★★ クリストファー・ロイド 文藝春秋	地球が誕生して、生物が生まれ、人間が出現して、文明も争いも起り・・・という物語が「続き物」として語られています。ページを開くだけで時空を超え、好きな時と場所に旅ができる、とても素敵な本です。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『医師の一分』★★ 里見清一 新潮社	人工呼吸器や胃ろうなど生命維持装置が開発されたことはよいことではありますが、多臓器不全の高齢者につけられて、ただ死が先延ばしにされている状況も生むようになりました。この状況は、誰かが望んでいるのでしょうか。著者は、治らないけれど生きていかなければいけないがんの患者とともに歩きながら、医師は何をどうすべきかを問いかけます。こういう先生ばかりだったら「がん難民」などなくなるのに。
41	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院法学研究科・日本学術振興会特別研究員PD 松本 和洋 「法の考え方の共有と影響」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『リーガル・マキシム 現代に生きる法の名言・格言』 吉原達也・西山敏夫・松嶋隆弘(編著) 三修社	法格言(法に関わることわざ)を、その成り立ちや日本の法体系との結びつきと併せて紹介しており、法学をこれから学ぶ人・法学に興味を持っている人のどちらにも手に取ることができる本

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
		若者にお勧めしたい本	『法における常識(岩波文庫)』★★ P.G.ウィングラドフ(著) 末延三次・伊藤正己(翻訳) 岩波書店	原著・翻訳とも出版から時間が経過しているため、現在からみると古く思える箇所もあるが、法や法学というものについて、何となくでもイメージを掴みたいと考えている人にオススメできる本
		今の仕事(研究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『ラテン語法格言辞典』★★ 柴田光蔵・林信夫・佐々木健(編) 慈学社出版	ラテン語の法格言を対象に、ローマ法、大陸法、英米法を問わず幅広く出典も示しており、それぞれに同じ法格言が用いられていることもうかがえる。大陸法と英米法の違いにはローマ法の影響の程度も関連する(英米法は影響の程度が低いと言われる)が、「同じ法格言でも、受け継いだ先で独自に意味や内容が変化していったのではないかと?その国や地域独自の法学の発達と関連するのは?」と考えたのが現在の研究のきっかけです。
42	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・教授 米田 稔 「どうする?どうなる?福島放射能」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『レイチェル・カーソンはこう考えた』★★ 多田 満 筑摩書房	レイチェル・カーソンは、著書「沈黙の春」を出版することによって、農業による環境汚染のリスクを、地球の環境(大気、土、森、海、川など)と生命とのつながりを広くて長期的な視野を持って、警告しました。この本は、レイチェル・カーソンが人々に訴えようとしたことを、さまざまな角度からわかりやすく説明しています。この本を読めば、地球環境と共生して生きていくことの大切さを理解できるのではないかと思います。
		若者にお勧めしたい本	『デジタル社会はなぜ生きにくい』★★ 徳田 雄洋 岩波書店	私たちは、毎日、インターネットなどのネットワークを通じて世界中の膨大な情報をすぐに手に入れることができ、情報機器を駆使した便利な生活を送ることができ「デジタル社会」に生きています。しかし、一方では、「ネット犯罪」、「フェイクニュース」、「システム障害」などの不都合も起こっています。この本は、「デジタル社会」を“上手に”生きるための警告やヒントを示してくれていますので、ぜひ読んでほしいと思います。
43	研究者と立ち話(ポスター/展示) ウイルス・再生医科学研究所・日本学術振興会特別研究員PD 西東 洋一 「かさぶたとマクロファージで再生医療」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『生命を支えるマクロファージ』★★ 高橋 潔 文光堂	残念ながら絶版で、運がよい時に中古購入しかできません。代替本として「医学のあゆみ マクロファージのすべて ASIN B01M5D1VX1」を推薦します。マクロファージという細胞について、その起源について大系的にまとめられた1冊であり、系統発生的アプローチがすばらしい。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『ワーク・シフト』★★ リンダ・グラットン プレジデント社	今までの仕事感が変わります。昨日と同じことを今日やっていたら、明日も同じ日々が送れるわけではない。2025年にどのような働き方をすべきなのか、受け身にならずに変化に対応する術を具体的に提案してくれます。やや長ったらしい本ですが、読んでよかったですと思える一冊です。
		若者にお勧めしたい本	『サビエンス全史(上・下)』★★ ユヴァル・ノア・ハラリ 河出書房新社	今更紹介する必要もないくらい有名な本。有史以前～現代まで、生物としてのヒトと、そのヒトが築いた社会や人間の歴史を上下巻でイッキ見できます。理系も文系も関係なく、ヒト(人間)に少しでも関わる研究者は読んで損はないと思います。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『人間と動物の病気を一緒にみる:医療を変える汎動物学の発想』★★ バーバラ・N・ホロウィッツ インターシフト	人の病気、動物の病気を分け隔てなく研究し、その研究成果を医学・農学・獣医学等に反映させる。様々な職種によるコクリエーションは考えただけでワクワクしますが、なかなか実現していません。発表者の研究分野である病理学領域でこの本のようなことができたらと思っています。
45	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 村井 俊哉 「価値観と生活習慣、つながる脳」	自分の研究 に関連して紹 介したい本	『デジタル・デメンチア 子どもの思考力を奪うデジタル認知障害』★★ マンフレッド・シュビッツァー 著/小林敏明 訳/村井俊哉 監修 講談社	デジタル・メディアは私たち自身をどのように変えていくのでしょうか?この本では多くの脳科学・社会心理学のエビデンスを引用し、デジタル・メディアに囲まれた生活が子どもの認知に悪影響を与えると警鐘を鳴らしています。私たちは進化しているのか、それとも退化しているのか?客観的データを絡めた持論の展開も鮮やかで、様々な考えさせられる一冊です。
		若者にお勧めしたい本	『〈インターネット〉の次に来るもの 未来を決める12の法則』★★ ケヴィン・ケリー 著/服部 桂 訳 NHK出版	AI、VR、AR、ブロックチェーン、ライフログ…。この先30年で世界はどのように変わっていくのか。デバイスの発達だけではなく、科学が進化するプロセスに着目し、ダイナミックな潮流としての説得力のある未来予測を展開しています。新しい発明が新しい渴望を生み出し、それを埋める新しい発明がまた求められるサイクル。私たちが後戻りのできない未来に向かっていく現実を知ります。
46	研究者と立ち話(ポスター/展示) 東南アジア地域研究研究所・助教 大野 美紀子 「"史料"というフィールドへ」	今の仕事(研究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『<子供>の誕生—アーンシアン・レジーム期の子供と家族生活』★★ フィリップ・アリエス みすず書房	見慣れた対象—子供が過去には存在していなかった。<小さな大人>から<子供>として対象が認識されていく変遷過程を絵画や墓碑銘など文献ではない史料をつかって浮かび上がらせていく手法が新鮮でした。まるでミステリー小説みたいで、こんな歴史学もあるんだなあ、自分もちよっとやってみたいなと思いました。

ブース番号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』/著者名/出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
47	研究者と立ち話(ポスター/展示) こころの未来研究センター・研究員 田村 綾菜 「子どもの多様性を考える」	今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで』★★ 赤木和重 ひとなる書房	発達心理学・特別支援教育の専門家である著者がアメリカのさまざまな教室に入り込んだ体験をもとに、「アメリカを通して日本の教育を考える」本です。自分も一緒に教室に入り込んだ気分がドキドキワクワクしながら、アメリカの教育の光と影を知ることができます。日本で多様な子どもたちがともに学ぶために必要なことは何か、ぜひたくさんの人に読んで一緒に考えてもらいたいです。
		若者にお勧めしたい本	『勉強するのは何のため?—僕らの「答え」のつくり方』★★ 菅野一徳 日本評論社	「なんで勉強なんかしなきゃいけないの?」という問いに対して、絶対に正しい「正解」ではなく、「なるほど、たしかにこう考えればすっきりする」という「納得解」を与えてくれる本です。問いへの答えだけでなく、こうした「正解」のない問題に対する「哲学的な考え方」も学ぶことができます。いろんな問題を考える際に、きっと役に立つと思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『学校でのICT利用による読み書き支援: 合理的配慮のための具体的な実践』★★ 近藤武夫 編著 金子書房	多様な子どもの学びを支えるためには、多様な学び方を保障する必要があります。その選択肢の1つとしてICTの利用・活用があります。この本では、学校現場で実際に取り組まれているICTを利用・活用した読み書き支援の事例が多く紹介されています。指導や支援をする立場にはなくとも、読み書き障害に対する「合理的配慮(reasonable accommodation)」という考え方を考えるのにおすすです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『自閉症スペクトラムとは何か—ひとの「関わり」の謎に挑む』★★ 千住淳 筑摩書房	多様性の中の1つに自閉症があります。この本は、自閉症に関して知っておきたい基礎的な知識がわかりやすくまとまった本です。自閉症の診断基準に沿って、それぞれの背景にあるかもしれない心の働きについての客観的な研究結果をわかりやすく紹介してくれています。専門用語をなるべく使わず、使うときにも丁寧でかつすっきりとした説明で、話の展開もスムーズなので読みやすく、初めて自閉症について学ぶ方にもおすすめです。
49	研究者と立ち話(ポスター/展示) 学際融合教育研究推進センター・特定助教 赤石 大輔 「森里海と私たちのつながりを捉え直そう」	自分の研究に関連して紹介したい本	『地域環境学』★★ 佐藤哲・菊池直樹 東京大学出版会	地域環境学の教科書です。地域の自然環境や生物多様性を保全したい、地域社会の持続可能な開発に取組みたいという研究者が、それではどのように地域と関わり、共に地域の自然を守るか、知識の協働生産(トランスディシプリナリー)を行うか、ということを各地の実践事例から考察しています。
		若者にお勧めしたい本	『御松茸騒動』 朝井まかて 徳間書店	江戸時代、松茸山の管理を任される若い侍の物語。自分は賢いと思っていた若者が、自然と対峙して四苦八苦する様は、研究を志す人にとって共感を感じるのではないかと思います。キノコの生態学研究成果がうまく物語の要素となり展開していくところも読みどころです。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『森里海連環学への道』★★ 田中 克 旬報社	現在私が所属するフィールド科学教育研究センターや、森里海連環学について、筆者の大変な苦労の末に立ち上げられた経緯がつつられています。新しい概念や価値観を広げていくための社会連携の重要性を強調されており、それは現在のフィールド研にも思っています。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『どうすれば環境保全はうまくいくのか』★ 宮内泰介 新泉社	私達、森里海連環学教育研究ユニットでは、森里海の繋がりを再生する取組を、社会の多様な方々と連携して行っていきたいと考えています。それには本書で提示している「順応的ガバナンス」という考え方が有用であると考えています。また私達の暮らしから奪われつつある「余地」や「柔軟性」を保つことは、他者と共存していくための知恵であることも、本書は教えてくれています。
50	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院工学研究科・助教 石井 良太 「窒化物半導体材料とその光物性の魅力」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『Symmetry and Strain-induced Effects in Semiconductors』 G. L. Bir and G. E. Pikus Wiley	大学4年生のとき、世の中にはこんなに難しい本があるのかと思った本。同時に、この内容が理解できたら世界(と言っても私の研究が関係する狭い世界)が違って見えるのかなと感じた本。未だ読破できません。絶版と違うので大学図書館等に行かないと手に入らないと思います。
		若者にお勧めしたい本	『火の鳥』★★ 手塚 治虫 KADOKAWA	子供の頃に読んで印象に残っていた本。最近また読んでみましたが、大人になってから読んでも面白いですね。特に子供(未成年)に読んで欲しいです。道徳心が育まれるのではないのでしょうか。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『高校数学でわかる半導体の原理』★★ 竹内 淳 講談社	20世紀の電子工学の発展の歴史とその科学的内部分かりやすく書かれています。この本を含め、フルーバックスはオススメです。私は、数学や物理が分からなくなったら、当該分野の易しい本を本屋に探しにいけます(今でも)。
51	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院医学研究科・教授 篠原 隆司 「精子を作る幹細胞とその操作技術」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『微生物の狩人』 ポール・ド・クライフ 岩波書店	微生物ハンターの人たちを面白く紹介してある本です。人類はビタミンや遺伝子もハントしてきましたが、その最初に位置づけられる古典的名著です。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
52	研究者と立ち話(ポスター/展示) 大学院理学研究科・教授 田中 貴浩 「重力波物理学・天文学・創世記」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『学研の図鑑 宇宙』 学研	宇宙すげー、ロケット格好良いなあ。小学校の理科の授業での太陽観測と合わせて、非常に刺激になった。天文ガイド(誠文堂新光社)を買うようになり、下手な天体写真を撮るようになった。
		若者にお勧めしたい本	『科学者という仕事』★★ 酒井邦嘉 中央公論新社	研究者や業界について様々なことが書いてあり、研究者を目指す人にお勧めしたい本。今でも定期的に読み返す。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『重力波をとらえる』 中村卓史, 三尾典克, 大橋正健 編著/ 京都大学学術出版会 京都大学学術出版会	この本の出版後から時間が経つが、今尚、重力波をとらえるためのバイブルとしていつもそばに置いておきたい。(京都大学学術出版会によると在庫無しだそうです。)
		自分の研究に関連して紹介したい本	『深化する一般相対論』★★ 田中貴浩 丸善出版	重力波の直接検出を始め一般相対論誕生から様々な研究の発展や今後の展望がまとめられている。
53	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 人文科学研究所・准教授 藤原 辰史 「民主主義からなぜナチスが生まれたのか」	自分の研究に関連して紹介したい本	『カブラの冬』★★ 藤原辰史 人文書院	第一次世界大戦後の荒唐のなかでなぜナチスが登場したのか、飢えというテーマに取り組んだ研究書です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『戦争と農業』★★ 藤原辰史 集英社インターナショナル	トラクターから戦車へ、化学肥料から火薬へ、毒ガスから農業へ。人を生かす技術がなぜ人を殺す技術と同じなのか。一般向けの講座を書き起こした本。
		今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『抵抗者たち』 池田浩士 共和国	なぜ、ヒトラー政権下では抵抗が難しかったのか、それでもなぜ人びとは抵抗しようとしたのかを根本から考えた本。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『性食考』★★ 赤坂憲雄 岩波書店	できればわたしはずっと考えたくなかったテーマに、じつりと、じわじわと迫る本。
		若者にお勧めしたい本	『胃袋の近代』★★ 湯澤規子 名古屋大学出版会	日本の労働者たち、女工たち、貧民たちは一体何を食べていたのか。地べたから日本近代史を捉え直す本。
		若者にお勧めしたい本	『経済史』★★ 小野塚知二 有斐閣	市場、資本、労働のみならず、権力、家、生殖、文化など基本的なところから経済史を解きほぐした本。
55	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 人文科学研究所・日本学術振興会特別研究員PD 八谷 舞 「図書館はみんなの居場所？」	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『赤毛のアン』★★ ルーシー・モード・モンゴメリ 新潮社	「<前略>あたしが『お化け屋敷のものすごい神秘』という本を読んでいるのを見つけたのよ。<中略>とつてもぞくつと寒気がするほどおもしろいのよ、マリヲ。<中略>でもミス・ステイシーは、これはごくばかけた。ためにならない本だから、やめなさいっておっしゃったの。<後略>」本を読んで怒られるってどういこと!? 本を読んだら、普通は褒められない!? この一節を読んだときの衝撃が、博士論文の原動力になりました。
		今ハマっている本(誰かこの本について話したい)	『バツタを倒しにアフリカへ』★★ 前野ウルト浩太郎 光文社	程度の差こそあれ、若手研究者の生活はだいたいこんな感じですよ。
		若者にお勧めしたい本	『春の雪—豊饒の海・第一巻—』★★ 三島由紀夫 新潮社	とにかく美しい日本語に触れたい!と思ったときに読みます。特に聡子から清頭への恋文の美しさは圧巻。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『夢みる教養:文系女性のための知的生き方史』★★ 小平麻衣子 河出書房新社	理系よりも文系の方が「女性向き」?なぜ女性は「自分磨き」が好きなのでしょうか?言われてみればなぜなんだろう、と思えるような疑問の数々を丁寧に解きほぐしてくれる本です。

ブ ス 番 号	出展者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
56	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院医学研究科・教授 満脇 尚志 「進化を続ける放射線治療」	若者にお勧め したい本	『「がん」はなぜできるのか そのメカニズム からゲノム医療まで(ブルーバックス)』★ ★ 国立がん研究センター研究所 編 講談社	本書は50年以上の歴史を持つ国立がん研究センター研究所の これまでの、及び最新の知見を凝縮した一冊である。がんの発 生のメカニズムからその進展、それに対する治療だけでなく、が んの予防にまで踏み込み、科学的なことを正確かつ平易な言葉 で記述している。非常にホットな話題が多く取り上げられており、 がんは国民病ではあるが不治の病ではなくなっていることを実感 できるだろう。
58	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 福井謙一記念研究センター・シニアリサーチフェロー 榊 茂好 「緑の下の力持ち『触媒』と『計量化学』」	若者にお勧め したい本	『現代化学史』★★ 廣田護 京都大学学術出版会	化学の歴史を、優れた物理化学研究者であった廣田護先生(京 大理学部名誉教授)が執筆したものです。
		若者にお勧め したい本	『学問の創造』 福井謙一 俊成出版社	日本で始めてノーベル化学賞を受賞された福井謙一先生(当 時、京大工学部石油化学科教授)の少年期・青年期の思い出、 研究者としての思い出や想い、基礎を重視する考え方(応用をす るなら基礎からをやれ)、倫理的に優れた研究者とは、などが書 かれており、理工系の学生さんに読んでほしい
59	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 人文科学研究科・日本学術振興会特別研究員PD 藤倉 康子 「社会的に認められない結婚と親子関係」	今の仕事(研 究、進路)を 選ぶきっかけ になった本	『他社の苦しみへの責任—ソーシャル・サ ファリングを知る』★★ アーサー・クラインマン、 ジョーン・クラ インマン、 ヴィーナ・ダス、 ポール・ファ ーマー、 マーガレット・ロック、 E・ヴァレン ティン・ダニエル、 タラル・アサド、 坂川雅 子 訳 みすず書房	人々が経験する、さまざまな苦しみや痛みが、社会構造の一部 をなすということを示し、医療人類学をはじめとして、健康、福 祉、法律、宗教など様々な分野において、その後の議論の土台 となった本。政治的暴力や社会の構造的暴力、日常的な抑圧な どの問題が、文化人類学、社会史、文芸批評、宗教学、社会医 学の観点から考察されていて、理論と政策の関係を複合的に理 解することができます。
		今ハマってい る本(誰かとこ の本について 話したい)	『現代家族ベディア』★★ 比較家族史学会 編 弘文堂	この本は、現代家族のデータブックとして編集されていますが、 近年の新たな家族の形や、家族を超える親密圏など、最新の研 究動向も含まれていて、「家族って何？」という根本的な問題に についても考えさせられます。若手の研究者による章も多く含ま れ、多文化主義、ジェンダー論、グローバリゼーション、生殖医 療や、多様な親密関係の考察など、刺激的な議論にふれること もできる一冊となっています。
		若者にお勧め したい本	『境界を攪乱する一性・生・暴力』★★ 竹村和子 岩波書店	フェミニズム理論と正面から向き合い、性の権力構造や、暴力と 性の政治について、深く考えぬかれた本。ジュディス・バトラーの 翻訳者であり解説者でもある著者は、「根源的な他者」という問 題に関し、理論的には、主体／他者で切り分けられない存在の 在り方を模索し、政治的には、差異と平等の終わりのない交渉 について論じています。著者の没後に編集された本ですが、思 索途中の息吹が伝わってくるような迫力を感じます。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『彼女達との会話—ネパール・ヨルモ社会 におけるライフ／ストーリーの人類学』★ ★ 佐藤齊華 三元社	本書は、ネパール・ヨルモ社会で生きる女性達の生と、彼女達自 身によるその生についての語りから、社会に生きる個人の姿を、 一人一人の生に寄り添って描くことこどわった力作です。個人 の行為と社会的諸力の関係を考察しながら、人間の生を、その 人本人による語りを通して浮かび上がらせる手法がとられ、特 に、女性達の結婚をめぐる語りの分析からは、生きた軌跡として のジェンダーを読み取ることができます。
60	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院医学研究科・准教授 和田 敬仁 「遺伝カウンセラーと学ぶ『がんゲノム』」	今ハマってい る本(誰かとこ の本について 話したい)	『「がん」はなぜできるのかそのメカニズム からゲノム医療まで』★★ 国立がん研究センター研究所 講談社	がんの仕組みについてわかりやすく書かれています。近年頻繁 に見聞きする、がんのゲノム医療って何？と思う方でも理解しや すい1冊です。
		自分の研究 に関連して紹 介したい本	『遺伝カウンセリングのためのコミュニケー ション論』★★ 小杉真司 メディカルドゥ	京大遺伝カウンセラーコースを卒業した認定遺伝カウンセラーの 方々が実体験をもとに執筆しています。遺伝カウンセリングの実 践的な現場の様子も多く盛り込まれています。京大遺伝カウンセ ラーコースではこの本で遺伝カウンセリングを学んでいます。患 者に寄り添う医療従事者の方にも是非読んでいただきたい1冊 です。



Dialog with the Public



生協ショップルネ書籍コーナーにて「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

(場所：京都大学西部生協会館ルネ1階)